GNC Japan
Global Network for Coexistence

特定非営利活動法人 GNC Japan
http://www.kyouzon-gnc.com

2015年度
GNC 活動報告

Copyright(c) 特定非営利活動法人 GNC Japan All Rights Reserved.

2015 年植林準備のためモンゴル国へ（4 月 6 日～4 月 15 日）

【日時】2015 年 4 月 6 日（月）～4 月 15 日（水）

【場所】モンゴル国トゥブ県

【スタッフ】GNC Mongolia　オグナー、サラ

GNC Japan　小川安里

2015 年の植林準備のためのモンゴル渡航を実施しました。

ボゴントノミンのアルタンツェツェグさん、トゥメンナサンさんと話し合いには時間がかかりましたが、セレンゲ県での植林日も決定し、苗木も土地も確約できました。

また今年のトゥブ県での植林は、2014 年から植林を実施している違法伐採地が広がるジャルガラント村、そして 2014 年に視察した 2012 年山火事跡地のボルノール、そして GNC の苗畑があるバヤンチャンドマン村周辺を予定しています。苗木の調達と住民との話し合いを行い、こちらも植林日を決定しました。

セレンゲ県には 5/11 に再度渡航して、5/12～植林を実施します。5/11～5/15 の日程で、ご支援いただいているアールキューブさんと一緒に植林予定です。

トゥブ県の植林は 5/18～を予定しています。

5 月になると緑が少しは増えるのではないかと期待しています。

Copyright(c) 特定非営利活動法人 GNC Japan All Rights Reserved.

モンゴルの春祭り「ハワリンバヤル 2015」に出展しました

【日時】2015 年 5 月 3 日（日）～5 月 4 日（月）

【場所】光が丘公園けやき広場（東京都練馬区立光ヶ丘図書館前）

【スタッフ】GNC Japan　宮木いっぺい　矢野明子　佐藤高広　高橋京子　小川安里

5 月 3 日と 5 月 4 日に、1998 年の第 1 回開催から数えて、今年 15 回目となるモンゴルの春祭り「ハワリンバヤル 2015」が開催されました。

GNC は、2 日間出展しました。

今回のハワリンバヤルのテーマは「モンゴルの人間力、未来への宝もの」です、ハワリンバヤル 2015 実行委員長のウンダークさんによるテーマの説明は　「モンゴルと言えばとにかく遊牧民で相撲が強いイメージがあります。しかし、それだけではなく知的才能を有する若者や子供も沢山います。そのため、若い人たちが才能を磨き、それを生かして活躍する環境を整えることがモンゴル国の明るい未来への鍵であります。一方、日本とモンゴル両国の交流はビジネスや文化や環境など様々な分野で発展していますがそのなかでも一番大切なのは、お互いに学び合う知恵と教育の交流だと思われます。この 2 つの理由から今回の春祭りでは「人間力」をテーマにし、イベントや各種企画を通してモンゴル国に技術や科学教育をもっと重視するように励むことと両国の科学・教育の交流を促進することを目指しています。」という事です。

GNC のブースでは 2 つのテーマによる展示を行いました、1 つ目は「人づくり」で、モンゴル国でのエコ教室・エコツアーについて、2 つ目は「森づくり」で、2004 年よりモンゴル国セレンゲ県で 2014 年までに、約 500ha の土地に、およそ 135 本のアカマツ植林実施についてです。

今年もモンゴルでの植林が始まります。今回の売上金及び寄付金は、モンゴルでの植林活動に使わせていただきます。ありがとうございました。

Copyright(c) 特定非営利活動法人 GNC Japan All Rights Reserved.

2015 年度セレンゲ県植林を無事完了しました

【日時】2015 年 5 月 11 日（月）～5 月 16 日（水）

【植林場所】モンゴル国セレンゲ県アルタンボラグ村ゴロワンツァガーントルゴイ周辺

【スタッフ】セレンゲ県ボゴントグループ　アルタンツェツェグ

ボゴントノミン社技術員　トゥメンナサン

株式会社アールキューブ　松永美湖（社員）

GNC Mongolia　ノヨルマー、オグナー、サラ

GNC Japan　小川　安里

アルタンボラグ村及びボゴント村の村民など約 15 名他

2015 年度もセレンゲ県に植林を無事完了することができました。皆様からの温かいご支援のお蔭で、本年は 26ha の土地に 65,000 本のアカマツの植林をすることができました。これまでに、526ha の土地に、142 万本の植林をしてきたことになります。誠にありがとうございます。

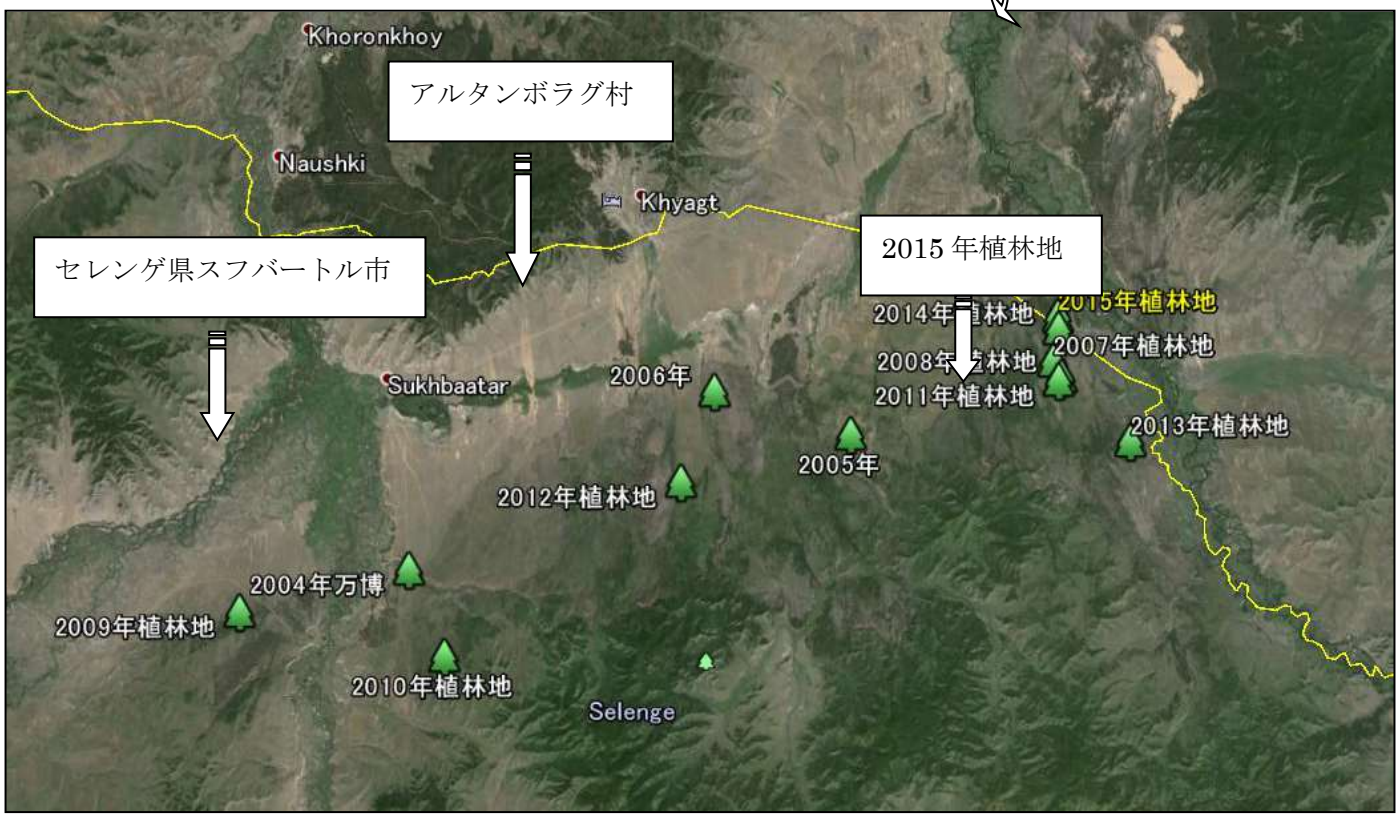
2015 年度の植林支援企業様につきましては、HP にて掲載しております。またモンゴル国セレンゲ県からの感謝状も送付致しました。

植林作業本数概況

支援企業・団体名	2015年植林	
	契約本数	実績本数
トライウォール株式会社 エコフィン特約店葬儀社 （トライウォール『生命の森』）	22,800	22,800
株式会社KSGインターナショナル （GNC共存の森）	10,000	10,000
SOTO禅インターナショナル （GNC共存の森）	6,600	6,600
緑の募金 （日・モ友好の森）	10,000	10,000
GNC（グリムスプロジェクトチーム）（GNC共存の森）	2,000	2,000
GNC（Just Smile!!） （GNC共存の森）	200	200
GNC（株式会社アールキューブ） （GNC共存の森）	6,000	6,000
GNCJapan （GNC共存の森）	7,400	7,400
計	65,000	65,000
	2500本/ha	（約 26ha）

Copyright(c) 特定非営利活動法人 GNC Japan All Rights Reserved.

植林地の位置



2015 年植林地位置図

代表点　50°14'10.14"N　106°54'32.62"E

2015 年植林地代表点の緯度経度

2015 年植林地の GPS 捕捉状況（外周代表点）

No	緯度	経度
1	50 14.236	106 54.532
2	50 14.458	106 54.559
3	50 14.474	106 54.715
4	50 14.347	106 54.863
5	50 14.154	106 54.887
6	50 14.053	106 54.936
7	50 14.033	106 54.810
8	50 14.149	106 54.781
9	50 14.131	106 54.587

Copyright(c) 特定非営利活動法人 GNC Japan All Rights Reserved.

2015 年植林の概況報告

2015 植林地はアルタンボラグ村ゴロワンツァガーントルゴイ周辺に位置し 2014 年植林地の西方に隣接する。当地域では 1996 年の森林火災以降も度々森林火災の被害に遭っている場所である。周辺では家畜の放牧は全く行われておらず、居住者もいないため、家畜の食害の危惧はないものと考えられる。2014 年～2015 年春にかけての越冬期は、積雪が少なく非常に乾燥した冬であったため、周辺各地の苗畑では苗が乾いて黄色くなっている箇所も見られた。また、ロシア国境の遠方では森林火災とみられる煙が上がっていた。

2012 年の春季も同様に火災による煙が多かったことを記録しているが、数年毎にその驚異と隣り合わせの中で植林を実施することになった。しかし、2012 年頃から行政主導の元、村役場や森林組合などの人員が火災危険期にパトロール隊を結成し、早期発見初期消火活動や関所での注意喚起を行っているため、大規模に延焼する可能性は低くなってきたものと考えている。

2015 年植林地の土壌は砂壌土で腐食がわずかで、腐食層は 10～40cm と少なくなって来ており、腐食の分解が進み土壌が硬い場所もあるため、速やかな植生回復が望まれる。右に植林時の状況写真を示す。

植林に用いた苗は、セレンゲ県ボゴント村の苗畑で育てられた 2 年生アカマツ苗を使用し、苗畑での抜き取り後は根茎を泥で包みビニール袋で運搬することにより、根の乾燥による植え付けリスクを軽減している。また植林場所での仮保存時は溝の中に置き水分を維持した。

溝幅は 4m 以内、植え付け間隔は 1.5m 以内で植林を実施した。植林密度は 2500 本／ha である。

春季植林において予定していた 26ha の植林が全て完了したしたことを報告する。

苗の仮保存状況

植林前の苗の状況

遠景写真Ａ

遠景写真Ｂ

Copyright(c) 特定非営利活動法人 GNC Japan All Rights Reserved.

植林時の状況写真

2015 年植林状況

写真 1. 植林時の状況

写真 2.　植林時の状況

写真 3. 植林時の状況

写真 4.　植林時の状況

写真 5. 植林時の状況

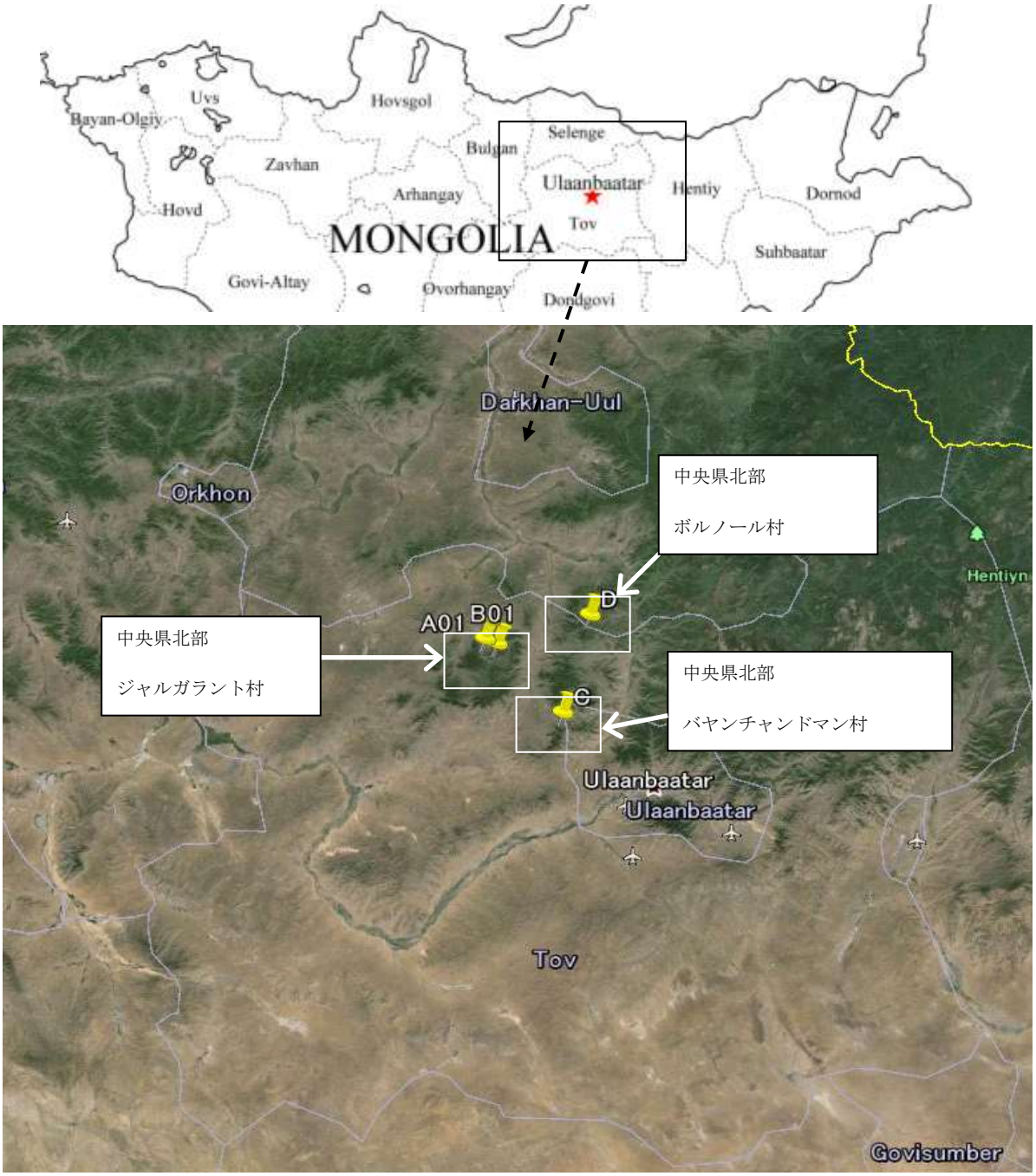
Copyright(c) 特定非営利活動法人 GNC Japan All Rights Reserved.

2015 年度モンゴル国中央県の植林が無事終わりました

モンゴル国中央県の植林も無事終わりました。バヤンチャンドマンには 5,000 本、ジャルガラントでは違法伐採地に 3500 本、ボルノールは 2012 年の山火事跡地に 2000 本と、それぞれ 1～2ha 前後植林しました。

ジャルガラント村は、昨年の植林から 1 年が経ちました。うれしいことに今年、地元の住民の皆さんが、自分たちで 4000 本の木を違法伐採地に植えてくれていました。特に何か言ったわけではないですが、自主的に環境活動に取り組むきっかけを GNC がお手伝いできたのかな、とうれしく思います。

事業場所（位置図添付）



図．中央県北部植林実施場所位置図

Copyright(c) 特定非営利活動法人 GNC Japan All Rights Reserved.

バヤンチャンドマン村

【日時】2015 年 5 月 11 日

【参加者】バヤンチャンドマン村森林保護官 3 名

GNC Mongolia　3 名　ノヨ、ナスカ、バットゾリグ

地域 NGO 会員　23 名

村の専門学校学生　13 名

バヤンチャンドマン村の方々とはこれまで長年に渡り交流してきたこともあり、大人数が集まっていただき、にぎやかな中で植林を実施することができた。特に若者の植林への意欲の高まりが顕著であった。このエネルギーをうまく環境保全に導いていきたいと考えている。

写真．植林時の状況

写真．植林時の状況

写真．植林時の状況

写真．植林時の状況

写真．植林作業完了後の集合写真

Copyright(c) 特定非営利活動法人 GNC Japan All Rights Reserved.

ジャルガラント村

【日時】2015 年 5 月 22～23 日

【参加者】ジャルガラント村森林保護官　森林課職員 2 名

GNC Mongolia　オグナー　サラ

GNC Japan　小川安里

遊牧民、地域住民及び森林組合員　約 20 名

ウランバートル市から北へ約 80km。村人の主要産業は牧畜業、農業である。外資系の金鉱山開発も近年行われている。降水量が 400～500mm/年間と少なく、乾燥しているが、近年の温暖化による気候変動により毎年雨量が多い傾向が続いている。2002 年～2005 年頃、セレンゲ県トジンナルスでの伐採規制が厳しくなってから追われた人々がこの村での伐採が盛んであった。しかし近年、違法伐採はあまり表面化しておらず少ない傾向である。家畜の放牧は遠方から遊牧民も増え家畜頭数は以前の 2 倍に増加した。

植林当日は、事前に村役場森林課の呼びかけで地域住民及び森林組合員参加が 20 名程あり、作業はスムーズに進んだ。子供も数名参加していただき充実していた。

写真．植林方法の説明

写真．植林時の状況

写真．植林時の状況

写真．植林作業完了後の集合写真

Copyright(c) 特定非営利活動法人 GNC Japan All Rights Reserved.

ボルノール村

【日時】2015 年 5 月 18 日

【参加者】ジャルガラント村森林保護官　森林課職員 2 名

GNC Mongolia　オグナー　サラ

GNC Japan　小川安里

遊牧民、地域住民及び森林組合員　約 15 名

ボルノール村の中心部から北東方向へ約 15km に採草地の谷があり、その谷の東方に位置する西斜面において植林を実施した。2012 年に人為起源の森林火災が発生した場所であり、300ha 程消失した後放置され、ヤナギ等の灌木層が自然更新したものの高木層が再生しておらず、土壌の乾燥化が進み草地化が危惧される。このためアカマツ苗の植林を実施することにより早期に森林植生を取り戻すこととする。採草期間である春～秋の期間は家畜の進入は許されない。さらに冬季は越冬地として牧民が利用するが積雪深が数十 cm あるためこの場所は家畜の進入が稀薄であるとのことから、植林の実施場所として選定した。

家畜が進入していないが伐採が行われ土壌が劣化しているため、家畜防護柵を設置せずに植林を実施した。

写真．植林時の状況

写真．植林時の状況

写真．植林時の状況

写真．植林作業完了後の集合写真

Copyright(c) 特定非営利活動法人 GNC Japan All Rights Reserved.

第 14 回 NGO 合同研究＆活動報告会を開催しました。

【日時】2015 年 6 月 14 日（日）15 時～16 時半

【場所】SOOO dramatic！台東区下谷 1－11－15 ソレイユ入谷 1 階

【参加者】　ウィルライフ株式会社　増田進弘

一般社団法人地球緑化クラブ　原鋭次郎

GNC Japan　宮木いっぺい　矢野明子　佐藤高広　高橋京子　小川安里

プログラム

１．開会挨拶
２．各団体報告（以下参照）＆質疑応答
３．意見交換
４．閉会挨拶

開催概要

発表団体

『特定非営利活動法人 GNC Japan』

活動地：モンゴル国・日本国

E-mail：kyouzongnc@gmail.com　HP：http://www.kyouzon-gnc.com

発表者：小川安里氏（事務局）

テーマ：　今年 5 月にモンゴル国に渡航して、植林を実施してきた報告をいたします。

GNC Japan がモンゴル国セレンゲ県トジーンナルス(果てしないアカマツ林)に植林を始めてから、 今年で 11 年目となりました。1980 年代～1990 年代の大規模な山火事により、被害に遭った 32,000ha(森林全体の 70%)跡地に、26ha、70,000 本の植林をしてきました、今年までに、526ha の土地に、142 万本の植林をしました。

モンゴル国中央県の植林では、ボルノールは 2012 年の山火事跡地に 2000 本、ジャルガラントでは違法伐採地に 3500 本と、それぞれ 1ha 前後植林しました。ジャルガラント村は、昨年の植林から 1 年が経ちました。今年、

Copyright(c) 特定非営利活動法人 GNC Japan All Rights Reserved.

地元の住民の皆さんが、自分たちで 4000 本の木を違法伐採地に植えてくれていました、自主的に環境活動に取り組むきっかけを GNC がお手伝いできたのではないかと、嬉しく思いました。

発表団体

『一般社団法人地球緑化クラブ』
活動地：中国内モンゴル自治区クブチ沙漠・日本国三宅島
HP：http://www.ryokukaclub.com

発表者：原 鋭次郎氏（地球緑化クラブ 代表理事）

テーマ：砂漠地帯における産業の実現化に向けて

はじめに：団体設立当初から植林を中心とした砂漠緑化事業を行ってまいりました。同時に、砂漠緑化には新たな産業を絡めた村おこしも必要であると考え、あらゆる実験も行ってまいりました。

クブチ砂漠と旗下営での緑化事業が概ね終了したのを機に、新たな取り組みをスタートしようと考えております。各地の事業報告と共に、村おこしを兼ねた新たな活動に向けての考え、中国と国内での緑化活動の報告と共に新たな事業に向けた内容を発表いたします。

「モンゴルでの新規緑化事業　生態混交造成プロジェクト～セレンゲ県マンダラ蘇木トングリ村～」について

中国人モンゴル族スタッフ 2 名による現地視察

・トングリ村のコミニュティーグループから支援要請「村の近郊にある山々の木々は違法伐採により、山がはげ山化した、かつての生態系豊かな森を取り戻したい」　表土が流出または風食する前に緑化が必要、土地 250ha を無償で借り保護を開始、保護は出来ても回復させることが出来ない。

2015 年 5 月に行った植林活動、はげ山を生態混交林にするため複数種の苗木を植栽（予定）

・高木：カラマツ、シベリアマツ

・低木：ニンティアオ、エゾウワズミザクラ（予定）・自然繁殖：シラカバ他

トングリ村での今後の活動予定について

Copyright(c) 特定非営利活動法人 GNC Japan All Rights Reserved.

・自立化した化した活動

・貧困対策について

林業の縮小（違法伐採禁止）による貧困化、苗木の生産拠点としての村おこし、緑化技術とセットで販売、美化植物も生産

『ウィルライフ株式会社　増田様へモンゴル国セレンゲ県とGNC Mongoliaからの感謝状をGNC Japan代表からお渡しいたしました』

　私たちGNCメンバーだけでなく、主にモンゴル国で活動している「板橋モンゴル孤児支援の会」のメンバーにお集まりいただき、充実した報告会となりました。

参加していただいた皆様、ありがとうございました。

Copyright(c) 特定非営利活動法人 GNC Japan All Rights Reserved.

2015 年 GNC モンゴルエコツアー（9 月 2 日～9 月 9 日）

1　バヤンチャンドマン村　GNC 苗畑視察

【日時】2015 年 9 月 3 日 11：15～11：50

【場所】トゥブ県バヤンチャンドマン村

【スタッフ】GNC Japan　代表　宮木いっぺい　小川安里

【参加者】東京大学大学院修士 1 年生　ウンダーク（女性・モンゴル人在日留学生）

苗畑づくり

11 時 17 分にバヤンチャンドマンに到着。GNC　Mongolia の苗畑を視察する。スタッフのオーグナーさん、サラさんが出迎えてくれる。ジャルガラントでのゲル宿泊用の寝袋を受け取る。全体を視察して説明を受ける。一昨年から育て始めているアカマツの苗木は 2000 本は育っている。来年は出荷できそうだ。あとはイチゴにもチャレンジしている。カブも出来ていた。最大の敵は、ネズミとのこと。囲いを作って対応したいと思っている。またこれまでの井戸では水が足りなくなってきたとのこと。敷地の中央に出来れば新しい井戸を掘りたいとのこと。チャチャルガンやブルーベリーなどの果実がなる作物を作りたいとのこと。11 時 50 分に出発。

バヤンチャンドマン村苗畑で

アカマツの苗畑

2　セレンゲ県　植林地視察

【日時】2015 年 9 月 3 日 16：50～17：20（植林地：2004 年秋万博）

2015 年 9 月 4 日 11：45～15：20（植林地：2015 年春→2004 年春）

【場所】セレンゲ県トジンナルス他（植林地：2004 年秋万博、2015 年春、2004 年春）

【スタッフ】GNC Japan　代表　宮木いっぺい　事務局　小川安里

【参加者】東京大学大学院修士 1 年生　ウンダーク（女性・モンゴル人在日留学生）

Copyright(c) 特定非営利活動法人 GNC Japan All Rights Reserved.

森づくり

・2004 年秋万博（2005 年愛・地球博のプレイベントの際の植林地）

3 日 16 時 50 分に 2004 年秋万博の植林地に到着。今年は春先乾燥していて雨が少なく、植樹した苗木の活着については軒並み苦戦している中、意外にもよく育っていた。今年新しく安里さんやトメンナサンさんたちが植えた木もうまく活着していた。安里さんも大満足。万博の植林地ではじめて成果について手ごたえを感じた。17 時 20 分に出発。

意外にも元気に育っている

恒例の看板前の記念撮影

・2015 年春、2004 年春の植林地視察

4 日 11 時 45 分に 2015 年の植林地に到着する。元・森林・動物センター長の**ジャムスランさん**、植林担当者の**トメンナサンさん**が同行してくれた。今年は雨が少なく乾燥していたので木の活着については難しい年だった。このところ急に雨が降り出した。季節はずれに緑が増えたり花が咲き乱れたりしている。見ている分には美しい。いつもの年に無い景色だ。しかし、このいつもと違う天候のために、2015 年の植林地の活着率は全体的には 50 パーセントくらいか。うまくいっている畝もあればほぼ全滅の畝もある。全滅の畝は土が乾燥して硬くなっている。かつ水が流れた後も見られる。3 つの看板のうちちゃんとしていたのは 1 つだけであとの 2 つは修復が必要。全部で 26,5 ヘクタール。緑の募金は 4 ヘクタール 1 万本。共存の森は 13 ヘクタール 32200 本。トライオールの生命の森は残り。敷地全体の周囲を車でまわる。かなり広い。ロシアとの国境が見える場所で一服。素晴らしい景色だ。12 時 40 分過ぎに次に向けて出発。14 時 20 分過ぎに 2004 年植林地に到着。ますます成長していた。とりわけ間引きをしたところは力強く大人の木になっている印象だった。ジャムスランさんは間引きを勧めた尾上さんのアドバイスは正しかったと繰り返していた。今後も続ける必要がある。全体はいよいよ森といった感じになっている。いつものように定点撮影。集合写真。その後、14 時 50 分過ぎからシートを広げてみんなでランチ。植林地に向かう途中に買ったパンや缶詰、ソーセージ。それにもらったピクルス。トマトジュース。ちょうど良かったし楽しかった。雨もちょうど止んでくれていた。15 時 20 分過ぎ、トメンナサンさんに支払いを終えた後出発。途中花が咲き乱れていて美しい。蚊が多いのにはまいった。

Copyright(c) 特定非営利活動法人 GNC Japan All Rights Reserved.

2015 年春の植林地（共存の森）

2015 年春の植林地（日モ友好の森）

2004 年春の植林地（セレンゲ県で初）看板も隠れてしまった！

2004 年春の植林地は立派な森になりつつあります！

Copyright(c) 特定非営利活動法人 GNC Japan All Rights Reserved.

間引きをしたところとしなかったところではこんなに成長が違います！

3　セレンゲ県　第 7 幼稚園　花の種を贈呈

【日時】2015 年 9 月 4 日 9：00～10：10

【場所】セレンゲ県スフバートル市

【スタッフ】GNC Japan　代表　宮木いっぺい　小川安里

【参加者】東京大学大学院修士 1 年生　ウンダーク（女性・モンゴル人在日留学生）

人づくり

第 7 幼稚園に 9 時に到着。3 度目の訪問。昨年と同じ園長先生が出迎えてくれる。150 人の園児が 6 クラスに分かれて在籍している。一番下は 2 歳か 3 歳。順番に見て回る。一番上のクラスで一緒に記念撮影＆花の種を贈呈。2011 年にはモンゴル全体の学校の中で緑を大切にする 1 番の学校に選ばれた。2012 年にはセレンゲ県で 1 番。去年は 3 番だがそれは不満とのこと。1 番 2 番の学校は園長先生の見立てではそんなに緑も花も無いからということ。園内の遊具や花壇なども先生方が工夫して手作り。先生方が育てたブルーベリーで作ったジャムとパンとスーテーツァイをふるまってくれた。出発の際は雨が降っていたが、幼稚園ではあがっていた。それ以降植林地を回る時も時々雨が降ったが、僕らが外に出て視察している時は問題なし。その後は素晴らしく良い天気に。僕の晴れ男伝説は健在だった。昨年いただいた手作りのピクルスがおいしかったと絶賛したら、最後にまたプレゼントされた。催促したみたいになってしまったか？！10 時 10 分に出発。ジャムスランさんとトメンナサンさんが次の植林地視察に同行するために幼稚園に既に迎えに来てくれていた。

Copyright(c) 特定非営利活動法人 GNC Japan All Rights Reserved.

花の種贈呈後、園児たちと記念撮影

先生方が精魂こめて育てている

園長先生たちと

4　ジャルガラント村役場　訪問＆ミーティング

【日時】2015 年 9 月 5 日 14：10～15：00

【場所】トゥブ県ジャルガラント村

【スタッフ】GNC Japan　代表　宮木いっぺい　小川安里

【参加者】東京大学大学院修士１年生　ウンダーク（女性・モンゴル人在日留学生）

ジャルガラント村役場

事務局長ウルジサイハンさんと

Copyright(c) 特定非営利活動法人 GNC Japan All Rights Reserved.

ウルジサイハンさんとバトバヤルさん

花にあふれた役場（豚も！）

森づくり

14 時 13 分にジャルガラント村の村役場に到着。植林について担当してくれているバトバヤルさん（ひげをはやした人）が出迎えてくれる。事務局長のウルジサイハンさんと面会。GNC の紹介、名刺交換、チラシ渡し、ジャルガランドでの今後の活動と協力体制について話す。記念撮影。7000 人くらいの村でバヤンチャンドマンよりだいぶ大きい。かつ緑化について全国で 1 位の村として表彰された実績がある。住民や役場の人の意識は高そうだ。

まだ思いつきに過ぎないが、GNC は自分たちで何から何までやるのではなく、スフバートルの幼稚園やジャルガラント村など自主的にいい活動をしているところを見つけ出し光を当て、GNC から表彰するという活動が実はとても重要かつ効率的ではないかと考えた。いいものを真似するという競争心理を刺激するのである。これも人づくりの活動だ。15 時には出発する。

5　ジャルガラント　植林地視察

【日時】2015 年 9 月 5 日 15：30～18：00（2014 年春、2015 年春）

【場所】トゥブ県ジャルガラント村

【スタッフ】GNC Japan　代表　宮木いっぺい　小川安里

【参加者】東京大学大学院修士 1 年生　ウンダーク（女性・モンゴル人在日留学生）

ジャルガラントの植林地

バトバヤルさんと

Copyright(c) 特定非営利活動法人 GNC Japan All Rights Reserved.

植林管理を担当して下さっているバタさん一家

2014 年植林

2015 年植林

家畜がネットを破って侵入した痕跡あり。　応急措置で修復済み

Copyright(c) 特定非営利活動法人 GNC Japan All Rights Reserved.

15 時半にジャルガラントの植林地近くのバタさんのゲルに到着。バタさん一家は GNC の植林地の管理をしてくれている。（今回は 30 万 tg を支払った。）スーテーツァイとヨーグルトをごちそうしてくれる。荷物も隣の今晩宿泊するゲルに運び込む。その後 15 時 50 分過ぎに、バトバヤルさんも一緒に 2014 年と 2015 年の植林地を視察。2014 年はまあまあうまくいっているが、2015 年については、今年の乾燥が影響して、また 2 年目の苗木ではなく 3 年目の苗木を使ったためか、あまりうまくいっていなかった。また柵が一部壊されていて（修復されていたが）、おそらくそこから家畜が入ってしまっていたと思われる。家畜の糞が敷地内にたくさん落ちていたから。2014 年は 1,4 ヘクタール 2800 本のアカマツ。

16 時半に出発。今度はジャルガラントの村人が自主的に植林をしているところを視察する。17 時 5 分、山あいの植林地に到着。300 本を 2 日で植えたそうだ。村人 25 人、役人 5 人くらいで。乾燥していたということ 3 年目の苗木を植えたということなどの理由からか、あまりうまく活着していなかった。しかしそういう風に村人が自主的にやることは素晴らしいことだ。お金は村から出ているとのこと。17 時 20 分過ぎに出発。

次に、苗畑もあるということで視察に。17 時 30 分到着。**オユンビレグ**さんという真面目でしっかりした女性が自分の畑で見事にマツの苗畑を成功させていた。松かさを拾ってそこから種を採取し、その種を今年の春にまき、こまめに水やりをしていたら、元気なマツの苗木が育っていたとのこと。

アルタンツェツェグさんと引き合わせて、技術を伝授すればもっといい成果をあげられそうだ。このように、素晴らしい活動に光をあて、人と人をつなぐことも GNC の重要な任務ではないだろうか。というかむしろそういうところに GNC の存在意義があるかもしれない。無理やり植林をしても仕方がない。野菜を育てている温室も見学。きゅうりをたくさんいただいた。18 時に出発。

村人が自主的に植林した場所

自主的に苗畑を作るオユンビレグさん

苗畑

Copyright(c) 特定非営利活動法人 GNC Japan All Rights Reserved.

6　トーラ村　GNC　Japan モデル農場視察

【日時】2015 年 9 月 8 日 10：00～10：20

【場所】ウランバートル市ハンオール地区トーラ村

【スタッフ】GNC Japan　代表　宮木いっぺい　小川安里

GNC Japan　教育センター長　ツォグトサイハン

ツォゴさんが新しく取り組み建設中の日光温室を見学する。また新しく購入したトラクターを見せてもらう。ツォゴさんは、GNC　Japan 教育センターを、インキュベーション施設として機能させ、その目玉を日光温室にし、モンゴルの若者を農業を中心に教育し新たな仕事を創出するきっかけにしようとしている。問題はそのための資金調達をどのようにするかである。7 日から 8 日にかけてツォゴさんと宮木はその点について徹夜で語り合った。

日光温室（年に複数回収穫できる）

建設中

建設作業中

新しく入手したトラクター

Copyright(c) 特定非営利活動法人 GNC Japan All Rights Reserved.

7　第 13 回エコ教室の実施

【日時】2015 年 9 月 7 日 10：00～13：00

【場所】ウランバートル市　モンゴル国立大学エコロジー教育センター

【スタッフ】GNC Japan　代表　宮木いっぺい　小川安里

GNC Japan　教育センター長　ツグトサイハン

【参加者】東京大学大学院修士 1 年生　ウンダーク（女性・モンゴル人在日留学生）

エコロジー教育センター、18 学校、108 学校（14 歳～16 歳、計 38 名＋教員 2 名）

人づくり

8 時 20 分くらいにツォゴさんが迎えに来る。エコ教室用の飲み物や資材などを大量に車に積み込む。8 時 25 分過ぎに出発。順調で予定より早く 8 時 45 分にエコロジー教育センターに到着する。会場となる教室に飲み物や資材を運び込む。ナサンさんが挨拶に来る。上機嫌で元気そうだ。校長先生は授業があるためいないので、エコ教室が終了してからお会いすることになる。教室でチラシやプリントなど、それに調査道具などをセッティングする。早めに到着するとこういうことが余裕をもって出来る。9 席くらいのかたまりが 5 つある。9 時 50 分過ぎにはエコロジー教育センターの生徒（15 歳）が集まりだす。10 時には、エコロジー教育センターの生徒に続き 108 学校（モンゲニ）の生徒＆引率の先生も集まった。18 学校の生徒は渋滞で遅れるとのこと。そこでエコ教室をはじめることにする。

10 時 10 分過ぎ、まずは、僕が挨拶し自己紹介、そしてツォゴさん、ウンダークさん、あんりさんと自己紹介をする。あんりさんは手元資料がそろっているかを確認する。そして、メッセージカードに名前、学校、年齢を記入してもらう。エコロジー教育センターは、22 人の生徒、108 学校は、12 人の生徒と 1 人の先生。18 学校は 4 人の生徒と 1 人の先生。計 38 人の生徒と 2 人の先生が参加。10 時 25 分から僕がパワポとチラシを使って、GNC の活動紹介をする。10 時 50 分からあんりさんが、ウンダークさんに通訳をしてもらいながら、水質比較実験をはじめる。説明→水質調査→結果記入→発表→考察という流れ。11 時 35 分から発表がはじまる。最後は感想を書いてもらいお菓子とジュースを配り、その後 12 時 20 分過ぎから各校別に記念撮影。12 時半に終わる。

その後、エコロジー教育センター内の施設を見学。温室、博物館。13 時には教室に戻る。そこで GNC メンバーだけで撮影。そして 108 学校の地理の若い女性の先生、ツェンデ先生が挨拶に来る。まだ赴任してきたばかりだが、108 学校と GNC は長い関係があることを最近知った。これからも 108 学校といろいろなことをやって欲しい。そんなことを伝えてきた。握手して一緒に写真を撮る。

Copyright(c) 特定非営利活動法人 GNC Japan All Rights Reserved.

エコ教室準備

熱心に聞き入る生徒たち

最初の挨拶とスタッフ紹介

小川安里さんの講義

テーブルごとに作業

テーブルごとに作業

各校ごとに結果発表

各校ごとに結果発表

Copyright(c) 特定非営利活動法人 GNC Japan All Rights Reserved.

18 学校の生徒たちと

エコロジー教育センターの生徒たちと

108 学校の生徒たちと

センター内見学

8　モンゴル国立大学エコロジー教育センター会合

【日時】2015 年 9 月 7 日 13：00～15：50

【場所】ウランバートル市　モンゴル国立大学エコロジー教育センター

【スタッフ】GNC Japan　代表　宮木いっぺい　小川安里

GNC Japan　教育センター長　ツグトサイハン

13 時、校長室に入る。**バトツェツェグ**校長（女性）は去年と同じ。バトツェツェグ校長は学生時代**バザルドルジ先生**の教え子で、94 年ごろ東大に留学した経験もある。昨年はセンター長就任にあたって、ここ 10 年の GNC の活動報告もしっかりまとめてくれていて、GNC との関係性をきちんと理解してくれていた。（なお、GNC はこれまでに総計 3000 万 TG の支援をしているということがわかった。）去年は赴任してきたばかりだが、1 年やって何をすべきかよりはっきりしたとのこと。とても熱心で、GNC の活動をきわめて高く評価してくれている。今の政権が環境に力を入れていて、エコロジー教育センターに対して文部省からのお墨付きももらい、全国から視察に来るようになったとのこと。ただ、まだどのように発信していったらいいのか、どういう仕組みで運営していったらいいのかわからない。その先進事例を知りたい、そのために日本に出張し先進事例を見学し取り入れたいとのこと。何とか協力したいという話になる。

1 時間半も校長室で話しこんでしまった。ナサンさんも同席していた。実際の担当者はナサンさんだ。14 時 40 分過ぎ、ナサンさんの案内でエコロジー公園を見て回る。15 時 10 分過ぎには校舎に戻り、新しい施設（物理化学実験室、生物実験室など）を見学。テレビの環境教育番組を企画、出演している女の先生も紹介された。博

Copyright(c) 特定非営利活動法人 GNC Japan All Rights Reserved.

物館のタッチパネルも紹介された。昨年から比べると長足の進歩だ。校長先生のやる気が感じられる。謙虚で向上しようという気持ちがとても強い。一緒にやってゆく価値のある先生だ。

エコロジー教育センターの注目度が今とても高くなっていることはこれまでセンターに大きな足跡を残している GNC にとっては追い風だ。自然に GNC 自身が認知される。校長先生も常に外に向けて GNC のことを話してくれているそうだ。ツォゴさんも日本人との付き合い、人とのつながりを重視して積極的つながりを作ろうと考え始めたようで、いろいろな日本人に会うたびに GNC のことを話しているそうだ。20 年やっているというとみんなとても驚くそうだ。外の道路に面したところにも大きく GNC と協力してエコロジー公園を作ったことを説明するモンゴル語と日本語の看板が復活した。これは大きい。エコロジー教育センターを出たのは 15 時 50 分過ぎ。

バトツェツェグさん、ナサンさんと

エコロジー公園にて

市民の憩いの場になっている

メインの通りに向けた看板

Copyright(c) 特定非営利活動法人 GNC Japan All Rights Reserved.

付録　GNC 教育センター

ウランバートル市の中心から南西に車で 40 分ほどのところ、ハンオール地区トーラ村に位置する GNC の拠点、GNC 教育センターは、農場と宿泊施設から成っている。宿泊する場合は、食材を調達し（買うか収穫するか）自炊する。

GNC 教育センター

食堂・ミーティング室

寝室

シャワー室

今回のツアーメンバー

運転手のツェンゲルさんと宮木代表

ウンダークさんと小川安里さん

Copyright(c) 特定非営利活動法人 GNC Japan All Rights Reserved.

グローバルフェスタ 2015 に参加しました

【日時】10 月 3 日(土)10：00～17：00、10 月 4 日(日)10：00～17：00

【場所】お台場 センタープロムナード （シンボルプロムナード公園内）

GNC Japan ブース(ホワイト　W-14 番　環境)

【スタッフ】GNC Japan　宮木いっぺい　矢野明子　佐藤高広　高橋京子　小川安里

お蔭様で、2 日間のグローバルフェスタを無事終えることができました。開催期間中は去年まで雨ばかりでしたが、会場が変わった今年は天気に恵まれました、去年までの日比谷公園に比べますと、来場者も多く、会場内は広く歩きやすくなり、雰囲気も明るくなった気がしました。

GNC のブースに来てくださった皆様ありがとうございました。そして準備や段取り等で尽力してくださったスタッフの皆様、本当にお疲れ様でした。

Copyright(c) 特定非営利活動法人 GNC Japan All Rights Reserved.

アジア学生開発会議主催の合同報告会 2015 に参加してきました

アジア学生開発会議主催の合同報告会 2015 に参加してきましたのでご報告します。

【日時】2015 年 11 月 29 日（日）13：00～20：00

【場所】筑波大学付属駒場高等学校

【スタッフ】GNC Japan 小川幸造

第 1 部：モンゴルの遊牧民の幼児教育

第 2 部：国際支援とその終わり方

第 3 部：モンゴルのスラム街と大気汚染

第 1 部モンゴルの遊牧民の幼児教育

モンゴルの小学校では就学前教育が前提となっているが、遊牧民は小学校入学まで幼稚園などに通えず、就学前教育が出来ていない、そのため小学校の授業に追いついていけない、生活基盤教育（しつけ）はどのように行われているのか。

フィールドワークで対象となった家庭は普段の生活で生活基盤教育が行われていた、親は放任主義であまり怒らない、子供は自立的に育っている、子供が泣いていても放置し、危険なことをしようとしても注意をしたり、失敗しても怒らない、手伝いや仕事をやらせるのではなく、子供は親のやっていることを見て学び、聞かれたら教えるというスタイルをとっていた。

幼児教育は日本の支援団体による教育キットプロジェクトが行われており、親は定期的にソム（幼稚園）を訪れ、教育キットの使い方講習会を受け、説明書も充実している、1 日 15 分ほど教育キットによる就学前教育を行う、1 日 15 分なので親への負担は少ない、2 週間ほどで使用済みキットをソムに返却し、新たなキットを受領する、教育キットの内容は遊牧民仕様となっており、数の数え方を家畜などに例えている。

教育キット導入により子供は歌を覚えたり、昔話を覚えたりしている、しかし他の子どもと遊べない、プロの先生がいない、都市部の貧困層が多く住むゲル地区へ支援がないのが問題点。

第 2 部　国際支援とその終わり方

日本の支援団体による遊牧民への置き薬プロジェクト、医療体制が不十分なモンゴルで、モンゴル版「富山の置き薬」薬代は使った分だけの後払い、伝統医療は薬も安価で副作用が少ないが、置き薬プロジェクトが導入さ

Copyright(c) 特定非営利活動法人 GNC Japan All Rights Reserved.

れるまで都市部でしか手に入らなかった。

支援の流れは、日本の支援団体→現地 NGO からの賃金→医師、現地 NGO による講習会と説明書の配布→遊牧民、5 カ年計画、この支援により薬箱を置く遊牧民が増えて、緊急外来が減る成果となった。

しかし 2013 年にモンゴル政府へ移管したところ、国の政権交代により方針が変わり、うまく引き継げず、遊牧民には継続を望む声も多かったが、頓挫してしまった、プロジェクト中に引き継ぎを視野に入れておくべきであったが、支援活動の終わり方は難しい。

第 3 部　モンゴルのスラム街と大気汚染

モンゴルの首都ウランバートルで、大気汚染が深刻化しており、WHO(世界保健機関)が 2011 年に行った調査では、汚染物質の濃度が世界最悪とされました。

ウランバートルでは貧困層が住む、ゲル地区で使用する石炭ストーブがその一因となっています、世界銀行からは 45,000 個の改良ストーブ、改良ストーブを販売する 25 箇所のセンター、改良石炭、車両規制など、しかし、大気汚染対策は間に合っていません。

アジア学生開発会議主催の合同報告会 2015 に参加して

アジア学生開発会議様がモンゴルへフィールドワークへ行ったという事で、今回の報告会は同国で活動する当団体として、とても興味がありました。

ワークショップでは学生の方と意見を出し合い、ただ結果を聞くだけでなく、参加者全員で問題点の解決方法を探りました、参加することが出来て勉強になりました、

Copyright(c) 特定非営利活動法人 GNC Japan All Rights Reserved.

エコプロダクツ 2015 に出展しました

エコプロダクツ 2015 に出展しましたのでご報告します。

【日時】12/10(木)、12/11(金)、12/12(土)　10 時～18 時（最終日は 17 時まで）

【場所】東京ビッグサイト　東ホール

GNC Japan 出店場所：第 4 ホール「森林（もり）からはじまるエコライフ展 2015」ブース No.F-37

HP：http://eco-pro.com/2015/

【スタッフ】GNC Japan　宮木いっぺい　矢野明子　佐藤高広　高橋京子　小川安里

GNC Japan 教育センター長　ツォグトサイハン

エコプロダクツ 2015 の来場者数は 3 日間で 169,118 人（昨年は 161,647 人）、12 月 10 日（木）59,907 人、12 月 11 日（金）60,588 人、12 月 12 日（土）48,623 人でした。モンゴル国から来日中のツォゴ教育センター長も会場に来ました。

GNC のブースに来てくださった皆様、ありがとうございました。そして準備や段取り等で尽力してくださったスタッフの皆様、本当にお疲れ様でした。

Copyright(c) 特定非営利活動法人 GNC Japan All Rights Reserved.